

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DM543／グローバル化と宗教 (Globalization and Religion)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	生きることと信じること		
担当者名 (Instructor)	山口 まり子(YAMAGUCHI MARIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ICC2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	基礎科目(一般)		

授業の目標(Course Objectives)

- 1) いわゆる世界三大宗教(キリスト教・イスラム教・仏教)とその歴史、信仰内容、変容などを学びつつ、宗教に関わるいくつかの問題を考察する。
- 2) 日本における宗教現象と背後にある古代中国思想や朝鮮半島からの影響について考察する。

1. We will examine the history, teachings and transformations of three world religions (Christianity, Islam and Buddhism) and discuss issues associated with these religions.

2. We will examine religious phenomena in Japan and their background influences from ancient Chinese philosophy and Korean folk beliefs.

授業の内容(Course Contents)

いわゆる世界三大宗教(キリスト教・イスラム教・仏教を指すが、信者の人口によって定められている訳ではない)が、どのようにして誕生し、教えが広まっていく中で伝道された地域の文化との融合によってどのように変容してきたかを学ぶ。(最初にキリスト教が生まれる背景としてユダヤ教にも触れる。)

また、宗教は人々の心の拠り所となる一方で、異なる宗教・宗派を信じる人々に対する差別や攻撃を引き起こす要因ともなっている(宗教だけが理由でない場合が多い)。「寛容」が叫ばれつつも、現在まで宗教に起因する(と考えられている)差別や殺戮行為が後を絶たないのはなぜなのか。信仰と寛容、政教分離と信教の自由、科学と宗教、これらはそれぞれ両立するのか、などの問題も考察する。

最後の2回で、日本の信仰(民間信仰を含む)と祭り、その背後に存在する古代中国思想や朝鮮半島からの影響、修験道などについて考察する。

授業全体を通じて、人間にとって何かを信仰するとはどういうことなのか、また、異なる信仰・思想を持つ人を「理解する」とはどのようなことなのか(果たして可能なのか)、といった問題を考えていきたい。(以下の授業計画は、あくまで目安である。)

"We will learn how three world religions (here referring to Christianity, Islam and Buddhism, and at the beginning of the course we will look at Judaism as the background to the birth of Christianity) came into existence and how they were transformed by fusion with regional cultures.

While religion has formed the foundation of many people's lives, it has often caused discrimination and attacks against people belonging to different religions and/or denominations (though in many cases religion is not the only cause of conflicts). We will discuss why these discriminations and attacks caused by (or thought to be caused by) religion show no sign of ever ceasing, although we know the importance of open-mindedness and tolerance. We will consider the issue of whether each of the following pairs are compatible: faith and open-mindedness; laïcité and religious freedom; science and religion.

In the last two sessions we will look at Japanese religions (including folk beliefs and Shugendo, mountain asceticism incorporating Shinto and Buddhist concepts) along with background influences from ancient Chinese thought and the Korean folk beliefs.

Throughout this entire lecture series, we will consider what it means to believe in something (or have a religious faith). Also, we think about what it means to understand people with a different belief or value to your own (or whether this is possible at all). (Please note the course schedule below is only a guide.)"

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション～ユダヤ教について
2. ユダヤ教～キリスト教について(1)
3. キリスト教について(2)
4. キリスト教について(3)
5. イスラム教について(1)
6. イスラム教について(2)
7. イスラム教について(3)
8. 仏教について(1)

9. 仏教について(2)
10. 仏教について(3)
11. 日本の信仰 (神仏習合、山への信仰と修験道など)
12. 日本の信仰と祭り
13. 生きることと信じること: 宗教の意義を考える
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

イスラム教は日本ではあまり馴染みがないため、「参考文献」の欄に挙げた井筒の『イスラーム文化』を、授業が始まる前に一読されることをお勧めする。

また、同じく「参考文献」欄に挙げた、ヴォルテールの『寛容論』は、宗教に起因する(と言われている)様々な問題を考える上で、キリスト教の宗派や歴史を学ぶ上でも参考になるので、授業が始まる前に一読されることをお勧めする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・授業参加(20%)/提出物など(40%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

使用する資料は、授業で適宜配付する。

参考文献 (Readings)

1. 井筒俊彦、1991、『イスラーム文化』(岩波文庫)、岩波書店 (ISBN:400331851X)
2. 植木雅俊、2011、『仏教、本当の教え』、中央公論社 (ISBN:9784121021359)
3. ヴォルテール、2016、『寛容論』(古典新訳文庫)、光文社 (ISBN:4334753329)

旧約・新約聖書、クルアーンなどにも目を通しておくことが望ましい。

上記以外の参考文献は、適宜授業で紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)